

令和2年度・事業所による自己評価結果

事業所：ハッピーハート真砂 事業：放課後等デイサービス 回答数：7

チェック項目		はい	どちらともいえない	いいえ	自分が工夫している点 自分の課題や改善する点	課題又は改善目標
環境・体制整備	1 活動空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせ、安全性が配慮された空間となっているか。	6	1		・スペースが広がりが活動の幅が広がった。複数の活動を分けている。 ・スペースが広がったが、使い方をもう少し検討したい。	はっきりとした境界を設けたい場合にも対応できるように、部屋と部屋の間にカーテンをつけるなど工夫します。 空間の使い方は、その日のメンバーに応じて、過ぎやすく、活動しやすいように今後も柔軟に考えていきます。
	2 職員の配置数は適正であるか。	6		1		
	3 子どもや保護者への支援や対応に困った時、相談できる体制が整っているか。	7			・相談できる上司や仲間がいてくれて有難いと思っています。	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、職員は参画しているか。	6	1			勤務時間の関係で、当日の振返りに参加できない職員もいるが、振り返りノートや連絡ノートを用いて、PDCAサイクルを意識できるよう今後も取り組みを続けていきます。
	5 前年度の保護者向けアンケートや、面談による保護者の意向等を把握し業務改善にいかしているか。	6		1	・保護者の意向を周知し、活動の中に入れていた。 ・貴重なご意見をいただいています。 ・異動があり保護者アンケートまでは把握していなかった。	昨年いただいた貴重なご意見を踏まえ、改善に取り組んできました。職員の異動も踏まえ、改善点と取り組みについていつでも確認できる環境を整えます。
	6 接遇（言葉使い・挨拶等）、身だしなみを意識して業務に就いているか。	7				
	7 職員の資質の向上を行うために、組織として研修の機会を確保しているが、意欲的に参加しているか。	7				
適切な支援の提供	8 面談等を適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、計画を作成していると思われるか。	7			・行っている。利用児も含めた面談を増やしていく。	
	9 個別支援計画を周知し、子どもと保護者のニーズや課題を理解しているか。	6	1			
	10 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を組み合わせる計画を作成しているか。また、指導員は計画を意識し、支援や活動内容の意図を理解し支援しているか。	7				
	11 事業所全体で、子どもへの共通理解を持って支援にあたるよう努めているか。	7			・毎日振り返りをし、次の活動に生かしている。	
	12 活動プログラムはチームで立案を行っているか。	7				
適切な支援の提供	13 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	1			子どもたちの成長や社会状況によって、同じプログラムでも変化をつけています。今後の社会の変化にも対応できるよう柔軟に考えていきたいです。
	14 支援を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）を意識して行っているか。	6	1		・必ず個別に一人一人目的を持たせるようにしている。	振り返りを次の支援にどう生かすか、という視点を職員一人ひとりが持てるような環境づくりを徹底します。
	15 平日、長期休暇等に応じて、活動内容を設定し、支援しているか。	7				
	16 支援開始前には職員間で打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか。	7				
	17 支援終了後には、職員間で話し合いをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	1		・終了後には必ず振り返りを行って共有している。	当日の振返りに参加できない職員もいますが、振り返りノート、経過記録で情報を共有できるよう今後も工夫します。
	18 支援内容や状況等を正しく記録に残し、支援の検証・改善につなげているか。	7				
関係機関や保護	19 相談支援事業所のモニタリングや、支援会議等に、子どもの状況に精通した最もふさわしいものが参画しているか。	7				
	20 児童発達支援センターや発達障害者支援センター（JOIN）等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか。	1	5	1	・研修等で講義いただくなど、もう少し機会があると良い。	子どもたちの成長に応じて、専門的な見地からの助言が必要な場面が今後も予想されます。該当する専門機関より、研修の講師を引き受けていただき、実践中です。日々の取り組みに対するアドバイスをいただきながら、よりよい支援を目指しています。
	21 以前まで利用していた保育所や認定こども園、幼稚園、または学校等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3		4	・学校との間で情報共有や総合理解を図っている。	今後も必要に応じて情報共有を行っていきます。
22 学校や障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	3	1	・行っていると思うが細かいところは正直分からない。	必要に応じて、日々の様子や支援内容等の情報共有を行っています。今後も継続していきます。	

者との連携	23	保育園や学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7					
	24	保育所や認定こども園等、または放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか。		2	5			
	25	日ごろから子どもの状況を保護者と伝えあい、発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	1			・普段はなかなかお話しできない方もいる。どのくらい理解しあえているのか。	短い時間ではありますが、送迎時やお迎え時に様子をお伝えするよう心がけています。なかなかお会いできない保護者の方には連絡帳を通じて、日々の様子をお伝えするよう心がけています。
	26	支援の内容、利用者負担等について、質問があった際、誠意ある対応、丁寧な説明を行っているか。	5	1	1			
保護者への説明責任等	27	個別支援計画は、支援の内容の説明を行い、保護者から同意を得ているか。	7				・児発管が適切、丁寧に対応してくれている。	
	28	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	7					
	29	子どもや保護者からの相談・申入れがあった場合、迅速かつ適切に対応しているか。	7					
	30	定期的にお便り等を発行し、活動概要や行事予定等を子どもや保護者に対して発信しているか。	7					
	31	個人情報に十分注意しているか。	7					
	32	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のために、伝わりやすいよう配慮をしているか。	6		1		・保護者、子どもに合わせて伝達手段を変えている。 ・言葉が足りていないことはあると思うが、努力はしている。	
	33	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	3	2			感染症対策を徹底しながらの地域交流について状況を見ながら前向きに考えていきたいと思っています。
非常時等の対応	34	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。また、定期的に情報を家庭と共有し周知しているか。	7					
	35	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。また、定期的に情報を家庭と共有し周知しているか。	6	1			・対象児はいないが配慮をする準備はできている。	
	36	緊急時対応、防犯、感染症対応のマニュアルを策定し、職員に周知しているか。	5	2			・マニュアルはあるが、現在の形に合わせ準備中。 ・コロナの流行に伴いよりきめ細かい感染症対策が必要。	月々の訓練をふりかえり、感染症対策も含め現状に合ったマニュアルに更新中です。
	37	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7				・毎月防災の学習を取り入れている。	
	38	虐待を防止するため、虐待チェックアンケートや、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7					
	39	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で個別支援計画に記載しているか。	3	4			・身体拘束について再度職員に周知が必要。	身体拘束が必要な場面が今までありませんでしたが、今後どのような状況で身体拘束が必要となるのか、職員へ周知していきます。
	40	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか。	7					

## ハッピーハート真砂

今年度は、感染症拡大が懸念される中でのスタートで、予定していた活動を再度練り直したり、根本的な方向性を見直したりする必要性に迫られました。活動が制限される中で、職員にも不安、焦燥感、を感じる場面はありました。ですが、悪いことだけでなく、今までの支援の方向性を改めて見直すことで、日々の支援に本当に大切なことは何なのか、職員一人ひとりが目的意識を持って考える場面が今までよりも増えたのではないかと思います。現在は「世界を広げるために、いろいろな場所へ行ってみよう・たくさん体験をしよう」という方向性から「もう一度自分たちの世界を振り返ってみよう・掘り下げてみよう」という意識に向かっています。

子どもたちの成長に伴って、難しい課題も出てきました。支援会議等での各機関との連携が一層重要になってきています。また、施設内の研修に留まらず、専門機関からのアドバイスをいただきながら真摯に向き合わなければならない領域もあります。それらの必要性を職員一人ひとりと共有しながら、チーム一丸となって支援に当たる、その土台作りができたのではないかと思います。

とは言え、「空間をより快適にすること」「日々の活動のふりかえり方」「コロナ禍における地域交流の在り方」など、まだまだ課題はたくさんあります。今後明らかになった課題を一つ一つ「チーム一丸となって」改善し、日々の支援を充実したものにしていきたいと思っています。